

富良野

富良野支局

〒076-0032

富良野市若松町14番1

0167・23・2019

FAX23・2796

旭川支社

〒070-8720

旭川市4条通9丁目

旭川北洋ビル

報道 0166・21・2516

FAX21・2517

販売 21・2533

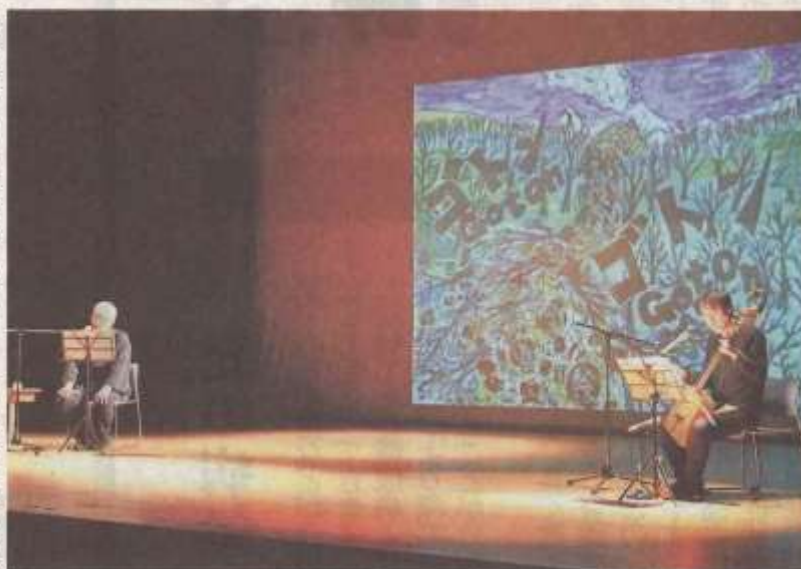
広告 21・2539

大正泥流忘れぬ
情感込めた語り

上富良野 朗読、紙芝居を上演

【上富良野】大正泥流から来年で100年を迎えるのを前に、災害の記憶を伝える朗読と紙芝居の上演会が、町保健福祉総合センター「かみん」で開かれた。迫真の語りに聞き入った観客は、多くの住民が犠牲となった悲劇に思いを巡らせた。NPO法人環境ホランティア野山人(佐川泰正

理事長)の主催で、14日に実施。町内外から約70人が訪れた。前半は作家三浦綾子さんの小説「泥流地帯」「続泥流地帯」を朗読グループ主宰者らが読み上げた。



嵯峨さん(右)の演奏とともに情感を込めて紙芝居を読む佐川理事長

上富良野高教諭で同校の朗読劇同好会顧問を務めたこともある研谷利幸さん(50)は「朗読することで、復興の歴史が脈々と自分たちの生活につながっていることを実感し

た」と語った。

後半は紙芝居「十勝岳噴火の思い出」を上演。1926年の噴火と泥流を体験した住民の証言を基に昨年完成したもので、同法人の佐川理事長が朗読。札幌の馬頭琴・喉歌奏者、嵯峨治彦さんが生演奏を添えた。

情感込めた語りと哀愁漂う音色が重なり、会場は静まり返った。町内の野沢守さん(83)は「朗読や紙芝居、演奏、どれも素晴らしい」と語った。

上演後、佐川理事長は来場者の前で「当時、生活の一部だった馬が多く犠牲になった。馬頭琴の音色には敬意と哀悼の思いを込めた」と説明。「100年を節目に、これからも語り継いでいく」と呼びかけた。(川上舞)